ホワイトハウス
報道官室

即時発表　　2009 年 12 月 1 日

大統領による演説
国民に向けて
アフガニスタンとパキスタンにおける今後の方策

アイゼンハワーホール劇場
米国陸軍士官学校、ウェストポイント

東部標準時午後 8 時 1 分

こんばんは。米国士官候補隊の皆さん、米軍の皆さん、そしてアメリカ国民の皆さん。私は今夜、アフガニスタンにおける我々の努力、そこでの米国のコミットメントの本質、国益の範囲、私の政権がこの戦争を成功裏に完結させるために追求する戦略について話したいと思います。ここウェストポイントで話をすることは非常に名誉なことですが、ここでは余りにも多くの男女が米国の安全保障のために立ち上がり、我が国の最も素晴らしいものを代表するために準備しているからです。

これらの重要問題を論じるためには、米国と同盟諸国がなぜアフガニスタンにおいて戦争をしなければならなかったかをまず思い起こすことが重要です。2001 年 9 月 11 日、19 人の男が 4 機の旅客機をハイジャックし、それを使って 3 千人近い人々を殺害しました。彼らは、我が国の軍事・経済の神経中枢を攻撃したのです。彼らは、信仰、人種、あるいは地位など一切お構いなしに、罪のない男女、子供達の命を奪いました。この旅客機の 1 機に乗っていた乗客達の勇敢な行動がなかったならば、彼らはワシントンにおけるアメリカ民主主義の偉大な象徴の 1 つをも攻撃し、さらに多くの人々を殺していたはずです。

ご存知のように、この男達は、罪のない人々の虐殺を正当化するために世界の偉大な宗教の 1 つであるイスラム教を歪曲し冒涜した過激主義者のグループ、アルカイダに属していました。アルカイダの活動拠点はアフガニスタンにあり、同国が長年のソ連占領と内戦により荒廃し、アメリカとその友好国の注意が他の場所に向けられた後に、国の支配権を握った無慈悲で抑圧的で過激な運動であるタリバンにより彼らは保護されていました。

9 月 11 日から数日後に、議会はアルカイダと彼らを保護する者達に対する武力行使を承認しましたが、その承認は今日まで継続しています。上院での表

決は 98 対 0 でした。下院での表決は 420 対 1 でした。北大西洋条約機構はその歴史において初めて、一加盟国に対する攻撃は同盟全体への攻撃であるとするコミットメント、すなわち憲章第 5 条を発動しました。そして、国連安全保障理事会は、9 月 11 日テロ攻撃に対応するために必要なあらゆる措置を承認しました。アメリカ、同盟諸国、そして世界は、アルカイダのテロ・ネットワークを破壊し、我々の共通の安全を保護するために 1 つになって行動しました。

この国内の結束と国際的な正当性の旗のもとで、タリバンがウサマ・ビンラディンを引き渡すのを拒否した後に初めて、我々は軍隊をアフガニスタンに派兵しました。数ヶ月以内に、アルカイダは散り散りになり、その活動要員の多くが殺害されました。タリバンは権力の座を追われ、続いて後退させられました。何十年もの間、恐怖を体験してきた場所に希望の兆しが出てきました。国連が召集した会議の際に、ハミド・カルザイ大統領のもとで暫定政権が樹立されました。そして戦争で荒廃した国に永続的な平和をもたらすのを助けるために、国際治安支援部隊が設立されました。

それから、2003 年初めに、イラクで第 2 の戦争を開始する決定が下されました。イラク戦争をめぐる痛々しい議論はよく知られており、ここで繰り返す必要はありません。その後 6 年間にわたって、イラク戦争が我々の軍隊、資源、外交、国家的関心の圧倒的な部分を占めるようになり、イラクに進攻する決定がアメリカと世界の多くの国々との間に大きな亀裂を生じさせたと言うだけで十分です。

今日、途轍もない代償を払った後に、我々はイラク戦争を責任ある形で終結させようとしています。我々は来年夏の終わりまでに米戦闘旅団をイラクから撤収させ、2011 年末までに米軍を全面的に撤収させます。我々がそうすることは、米軍の男女兵士の人格への証です。（拍手）。彼らの勇気、根性、忍耐心のお陰で、我々はイラク人に自らの将来を形作る機会を与え、イラクをその国民に成功裏に委ねつつあります。

しかし、我々がイラクにおいて苦労して画期的な業績を達成している間に、アフガニスタン情勢は悪化しました。アルカイダの指導部は 2001 年と 2002 年に国境を越えてパキスタンに逃走した後、そこで安全な隠れ家を確立しました。アフガン国民の選挙により合法的な政府が樹立されましたが、政府は腐敗、麻薬取引、未発達の経済、不十分な治安部隊などの障害に直面してきました。

過去数年間にわたり、タリバンはアルカイダと共通の目的で協力を維持してきましたが、それは両者がアフガニスタン政府の転覆を目指しているからです。タリバンは、パキスタン国民に対するますます大胆で破壊的なテロ行為に関与するようになり、徐々にアフガニスタンの広い地域を支配し始めました。

この期間を通じて、アフガニスタンに駐留する米軍のレベルは、イラク駐留米軍に比べごく小規模に止まってきました。実際私が就任した時、イラク戦争のピーク時にそこに駐留した 16 万人に比べて、3 万 2 千人余りの米軍部隊がアフガニスタンに駐留しているだけでした。アフガニスタンに駐留する司令官達は、タリバンの復活に対処するために追加支援を繰り返し要請しましたが、大規模な増援は実現しなかったのです。それゆえに、私は就任直後に、以前からの部隊増派要請を承認しました。同盟国との協議の後、私は、アフガニスタンにおける戦争努力とパキスタンにおける過激派の安全な隠れ場所との間の基本的な関係を認識した戦略を発表しました。私は、アルカイダとその過激派同盟者を阻止・解体し、撃退するという狭義に定義された目標を設定し、我々の軍事・民生努力をより良く調整することを誓約しました。

それ以降、我々は、いくつかの重要な目的における進歩を遂げました。アルカイダとタリバンの幹部指導者が殺害され、我々は世界中でアルカイダに対しての圧力を強化しました。パキスタンにおいては、同国の軍隊が過去最大規模の攻勢に出ました。アフガニスタンにおいては、米国と同盟諸国は、タリバンが大統領選挙を阻止するのを防止し、選挙は不正により損なわれはしたものの、アフガニスタンの法律と憲法に合致した政府が誕生しました。

しかし大きな挑戦課題が残っています。アフガニスタンは失われてはいませんが、過去数年間にわたり後退してきました。政府が転覆させられるという当面の脅威はありませんが、タリバンは勢いを得ています。アルカイダはアフガニスタンでは、9 月 11 日テロ事件以前と同じ人員を得るところまで復活してはいませんが、国境沿いに安全な隠れ場所を維持しています。米軍部隊は、アフガン治安部隊を効果的に訓練し、同部隊と提携し、同国民の安全をより良く確保するのに必要な全面的な支援を欠いています。アフガニスタン駐留米軍の新しい司令官マクリスタル大将は、治安状況が予想以上に深刻であると報告しました。要するに、現状維持を持続させることは不可能なのです。

皆さんは士官候補生として、この危険な時に軍務を志願しました。皆さんの中には、アフガニスタンで戦闘した人もいるでしょうし、そこに配備される人もいるでしょう。私は最高司令官として、明確に定義され、軍務に値する任務を皆さんに提供する義務があります。だからこそ、アフガニスタンの選挙が終了した後、我々の戦略の徹底した見直しを主張しました。明らかに、私の前には、2010 年までに軍隊の配備を要請したオプションはありませんでした。ですから、この見直し作業の結果、戦争遂行に必要な資源の提供が遅れたり、否定されたりすることはありません。むしろ、見直し作業により、私は答えづらい質問をし、国家安全保障チーム、アフガニスタンに駐留する米軍人・文民指導部、米国の重要パートナーと一緒にさまざまなオプションの全てを探索することができました。これに関わる利害を考えると、私は米国民、米軍兵士に返すべき義務を負っていました。

この見直し作業は完了しています。私は最高司令官として、3 万人の米軍部隊をアフガニスタンに増派することが米国の重要な国益であると判断しました。18 ヵ月後に、米軍部隊は帰還を始めます。この増派部隊は、我々がこのイニシャチブを制するために必要な資源であり、同時に米軍のアフガニスタンからの責任ある推移を可能にするアフガンの能力を構築するのに必要な資源です。

私は安易にこの決定をしたわけではありません。私がイラクでの戦争に反対したのは正に、軍事力の行使において自制がなければならず、我々の行動の長期的な結果を常に考慮しなければならないと考えるからです。我々は、膨大な人命と資源の犠牲を払って、8 年間戦争をしてきました。イラクとテロリズムをめぐる何年間にもわたる議論が、国家安全保障に関する我々の結束を崩し、この努力に対する極めて分極化された党派対立の背景を生み出してきました。そして、アメリカ国民は大恐慌以来最悪の経済危機を経験したばかりで、当然のことながら、国内での経済再建と雇用回復に焦点を当てています。

何よりも、この決定が皆さんにさらに多くを要求すること、皆さんの家族とともにすでに最も重い負担を背負っている軍隊に多くを要求することを知っています。私は大統領として、この戦争で命を捧げたアメリカ人一人一人の家族に対する悔やみ状に署名してきました。私は派兵された兵士の両親や配偶者からの手紙を読んできました。ウオーターリード病院に入院中の負傷した勇敢な兵士を訪ねました。永眠の地に運ばれるために米国に帰還した米国人 18 人の国旗に覆われた棺を迎えるためにドーバーに旅してきました。私は、戦争の恐ろしい代価を直接見てきました。もし私が米国の安全保障と米国民の安全がアフガニスタンの問題と関わっていると思わないならば、明日にでも米軍兵士の全員を帰国させる命令を喜んで発することでしょう。

ですから、私は、この決定を安易には下しません。私は、アフガニスタンとパキスタンに米国の重要な利害があると確信しています。そこは、アルカイダが実践する暴力過激主義の震源地であり、9 月 11 日テロ攻撃はここから行われ、私が話している間にも、ここから新しいテロ攻撃が計画されているのです。これは待機中の危険でもなく、仮説的な脅威でもありません。過去数ヶ月間だけでも、新しいテロ攻撃を実行するためにアフガニスタンとパキスタンの国境地帯からここに送られた過激主義者が米国内で逮捕されました。その地域がさらに後退してゆき、アルカイダが大手を振って行動できるならば、危険は一層増大するだけでしょう。我々はアルカイダに圧力をかけ続けなければならず、そうすることによってその地域の米国のパートナーの安定と能力を増大させなければなりません。

もちろん、この負担は我々だけが背負うのではありません。これは単にアメリカだけの戦争ではありません。9 月 11 日のテロ事件以降、アルカイダの安全な隠れ場所が、ロンドン、アンマン、バリ島に対する攻撃の源になってきました。アフガニスタンとパキスタン両国の国民と政府が危険に曝されています。アルカイダとその他の過激主義者が核兵器を追求していることを我々は知っており、

彼らがそれを使用すると信じるに足る理由があるので、核武装したパキスタン国内における危険は一層大きいものがあります。

こうした事実のゆえに、我々は友好国、同盟国と一緒に行動せざるをえません。我々の全体的な目標は変わりません。アフガニスタンとパキスタンにおけるアルカイダを阻止・解体・撃退し、将来アメリカと同盟国を脅かす能力を防止するということです。

その目標を達成するために、我々はアフガニスタン国内で次の目標を追求します。我々は、アルカイダの安全な隠れ場所を否定しなければなりません。タリバンの勢いを覆し、政府を転覆する能力を獲得するのを否定しなければなりません。アフガニスタンの治安部隊と政府の能力を強化し、彼らがアフガニスタンの将来に主導的な責任を持てるようにしなければなりません。

我々はこの目的を3つの方法で達成します。第1に、我々は今後18ヶ月間にタリバンの勢いを中断し、アフガニスタンの能力を増大させる軍事戦略を追求します。

私が今夜発表した3万人の増派部隊は、可能な限りの迅速さで2010年初頭に配備し、それによって同部隊が反政府武装勢力を標的にして攻撃し、主要な人口密集地域の安全を確保できるようにします。同部隊は、有能なアフガン治安部隊を訓練し、より多くのアフガン人が戦闘に参加できるように彼らと連携する米国の能力を増大させるでしょう。同部隊は、米国がアフガン人に責任を移譲するための条件作りを助けます。

これは国際的な努力なので、私は米国のコミットメントに同盟諸国からも貢献してもらえるよう依頼しました。中にはすでに追加部隊を提供している国もあり、今後さらに貢献してもらえると我々は自信を持っています。同盟諸国は、アフガニスタンで我々と共に戦い、血を流し、命を捧げてきました。今我々はこの戦争を成功裏に終えるために結束しなければなりません。なぜなら、単にNATOの信頼性が試されているだけではなく、米同盟諸国の安全保障と世界の共通の安全保障が問題になっているからです。

この米軍増派部隊と国際部隊は合わせて、責任をアフガン部隊に引き継ぐのを速めることを可能にし、2011年7月に米軍部隊のアフガニスタン撤収を開始することを可能にします。丁度イラクでしたのと同じように、我々は、現場の状況を考慮に入れながら、この責任移譲を実行します。我々は、アフガニスタン治安部隊が長期にわたり成功することを保証するために、同部隊への助言と支援を継続します。しかし、アフガン政府にとって、さらに重要なことにはアフガン国民にとって、自らが最終的に自国に責任を持つのだということが明確になることです。

第2に、我々は、アフガニスタン政府が治安の改善を利用できるように、より効果的な民生戦略を追求するため、米国のパートナー、国連、アフガニスタン国民と協力します。

この努力は、パフォーマンスに基づくものでなければなりません。援助を無制限に与える時代は終わりました。カルザイ大統領の就任演説は、新しい方向に移行することについて正しいメッセージを送りました。今後は、米国の援助を受ける人々から何を期待するかについて明瞭にします。我々は、腐敗と戦い、職務を遂行するアフガニスタンの政府省庁、州知事、地方指導者を支援します。無能な人々、あるいは腐敗した人々は説明責任を問われることを期待します。我々はまた、アフガン国民の生活に即刻影響を及ぼすことができる農業などの分野での支援に焦点を当てます。

アフガニスタン国民は何十年もの間、武力衝突に耐えてきました。彼らは、ソ連による占領、それからアフガニスタンの地を自分達の目的に利用したアルカイダの外国人戦闘員による占領に直面してきました。ですから、私は今夜、アメリカがこの戦争と苦しみの時代に終止符を打つことを目指していることを、アフガン国民に理解してもらいたいのです。我々は貴国を占領することには関心がありません。暴力を放棄し同胞市民の人権を尊重するタリバン人に門戸を開放しようとするアフガン政府の努力を、我々は支援します。そして、我々は、破壊する者を孤立させ、建設する者を強め、米軍が撤収する日を早め、アメリカが後援者ではなくパートナーとなる永続的な友好関係を育成するために、相互尊重に基盤を置くアフガニスタンとのパートナーシップを追求します。

第3に、アフガニスタンにおける米国の成功は、米国のパキスタンとのパートナーシップに密接に結びついているという全面的な認識を持って、我々は行動します。

我々は、癌が再び全土に広がるのを防止するために、アフガニスタンに駐留しているのです。しかしこの同じ癌がパキスタンの国境地域にも根をおろしています。だからこそ我々は、その国境の両側に通用する戦略を必要としているのです。

過去には、パキスタンには、過激主義に対する闘争は自分達の闘争ではなく、パキスタンは暴力を使用する者達に殆ど何もしないか、和解を追求する方が利益になると主張する人々がいました。しかし近年、カラチからイスラマバードまで罪のない人々が殺害される中で、過激主義により最も危険を蒙っているのはパキスタン国民であることが明白になってきました。世論が変化しました。パキスタン軍は、スワトと南ワジリスタンで過激主義者に対する攻勢を展開しました。今や、米国とパキスタンが共通の敵を有していることには疑いがありません。

過去には、我々もパキスタンとの関係を狭義に定義してきたことが多くありました。そういう時代は終わりました。今後我々は、相互利益、相互尊重、相互信頼の基盤の上に構築されるパキスタンとのパートナーシップに取り組む決意です。我々は、両国を脅かすグループを標的として攻撃するパキスタンの能力を強化しますし、場所が分っていて意図も明瞭なテロリストのための安全な隠れ場所を容認できないことはすでに明確にしました。アメリカはまた、パキスタンの民主主義と開発を支援するために相当な資源を提供しています。我々は、戦闘により住居を失ったパキスタン人に対する対外援助の最大の提供国です。そして今後は、パキスタン国民の偉大な潜在力が発揮できるように、戦火が沈静した後も長きにわたり、アメリカがパキスタンの安全保障と繁栄の強固な支持者であり続けることを、パキスタン国民に分かってもらわねばなりません。

我々の戦略には3つの中核要素がありますが、これは責任委譲への条件を創出する軍事努力、積極的な行動を補強する文民増派、パキスタンとの効果的なパートナーシップです。

私は、我々のアプローチに対して様々な懸念があることを認識しています。ですから、私の耳に入ってきた幾つかの顕著な議論で、私が非常に真剣に受け止めているものについて簡略に言及したいと思います。

第1に、アフガニスタンがもう1つのベトナムであると示唆する人々がいます。その国を安定させることは無理で、米国の損失を最小限に止め、急速に撤退する方がいいと主張しています。私は、この議論が歴史の誤った解釈に基づいていると思っています。ベトナムとは違って、米国の行動の正当性を認識する43カ国の広範な連合が我々に加担しています。ベトナムとは違って、我々は幅広い基盤をもつ人気のある反政府勢力に直面してはいません。そして最も重要なことは、ベトナムとは違って、アメリカ国民はアフガニスタンから悪意に満ちた攻撃を受け、同国国境沿いで攻撃を策謀している同じ過激主義者の標的になり続けています。この地域を今放棄し、アルカイダに敵対する努力だけに遠くから依存することは、アルカイダに圧力を与え続けるという我々の能力を大きく阻害することになり、米国本土および同盟諸国への追加攻撃に対する受け入れがたいリスクを創出することになります。

第2に、アフガニスタンを現状のまま放置することはできないことを認めるものの、すでに現地に配備されている軍隊だけで今後対応してゆくことを提案する人々がいます。しかし、これは我々がどうにか保ってきた現状を維持するだけであり、現地の状況が徐々に悪化することを許すことになります。アフガン治安部隊を訓練し引き継ぎをする余裕を与えるに必要な条件を生み出すことはできないので、最終的にはもっと高くつき、我が米軍のアフガニスタン駐留を長引かせることになります。

最後に、米国のアフガニスタンへの責任移譲の時間割を特定することに反対する人達がいます。実際、米国の戦争努力のより劇的な期限を特定しない段階的な拡大、最高 10 年間におよぶ国家再建プロジェクトに米国が取り組むという努力を求める人々もいます。これは妥当なコストで達成可能な目標や米国の国益を確保するために達成することが必要な目標を超える大きな目標を設定するものであるため、私はこの進路を拒否します。さらに、責任移譲の時間割が欠落していることで、アフガン政府との協力における緊迫感がなくなってしまいます。アフガン人が自国の安全保障に責任を持つこと、アメリカはアフガニスタンで無期限の戦争をすることに関心がないことを明確にしなくてはなりません。

大統領として、私は米国の責任、手段、あるいは国益を超える目標を設定することを拒否します。私は、我が国が直面する全ての挑戦課題を評価しなければなりません。一つの課題だけに全面的に取り組む贅沢は許されません。実際、私は、国家安全保障を論じたアイゼンハワー大統領の言葉、「各々の提案はより幅広い考察に鑑みて評価しなければならない、つまり国家のプログラムの中でそしてその間でバランスを維持する必要性がある」という言葉を心に留めています。

過去数年間、我々はそのバランスを失いました。米国の国家安全保障と経済との関係を正しく認識しませんでした。経済危機に伴い、余りに多くの隣人、友人が失業し、請求書の支払に苦闘しています。余りに多くのアメリカ国民が子供達の将来について心配しています。その一方で、世界経済における競争が激しさを増しています。ですから、我々はこの戦争の代価を無視することはできません。

私が就任した時には、イラクとアフガニスタンでの戦争費用は合計して 1 兆ドルに近づいていました。今後私は、これらの費用に公然と正直に取り組む決意です。我々のアフガニスタンにおける新しいアプローチは、今年の軍事費用にして約 300 億ドルかかる見込みであり、私は財政赤字削減努力の中でこの費用に対処するため、議会と緊密に協力します。

しかし、我々がイラクでの戦争を終結し、アフガニスタンに責任を移譲するに伴い、国内における国力を再建しなければなりません。我々の繁栄は、国力の基盤を提供します。それによって米国の軍事費用を支払います。米国の外交を賄います。米国民の潜在力を引き出し、新産業への投資を可能にします。前世紀と同じように、今世紀に米国が競争で成功することを可能にします。だからこそ、アフガニスタンにおける米軍のコミットメントを無期限とすることはできません。なぜなら、私が構築することに最も関心を抱く国は、米国自体だからです。

さて、はっきり言いましょう。このどれ一つとして容易なことはありません。暴力的な過激主義に対する闘いは速やかに終わるものではなく、アフガニスタンとパキスタンを超えてずっと広範囲に広がっています。それは、米国の自由社会と世界における米国の指導力の永続的な試験になるでしょう。そして、20

世紀を定義づけてきた大国間の紛争や明確な分断線と違って、我々の努力は無秩序な地域、破綻国家、分散した敵に対するものです。

その結果として、アメリカは戦争のやり方だけでなく、戦争終結、紛争防止の方法においても米国の力を示さなければなりません。軍事力行使において、機知に富み、正確でなければなりません。アルカイダとその同盟者が足場を築こうとする場所では、それがソマリアであれイエメンであれ、他のどこであっても、増大する圧力と強固なパートナーシップで彼らと対決しなければなりません。

我々は、軍事力だけに頼ることはできません。海外の暴力的な過激主義者全員を捕獲あるいは殺害することはできないので、我々は国土安全保障に投資しなければなりません。正体のはっきりしないネットワークに常に一歩先んじるために、我々は情報活動を改善し、より良く調整しなければなりません。

我々は、大量破壊兵器の手段を取り除かなければなりません。だからこそ、私は管理されていない核物質をテロリストから守り、核兵器の拡散を阻止し、核兵器のない世界という目標を追求することを外交政策の中心柱にしたのです。なぜなら、真の安全保障は破壊的兵器を求める果てしない軍拡競争からではなく、そういう兵器を拒絶する国によってもたらされることを、全ての国が理解しなければならないからです。

いかなる国も単独では、相互関連した世界の挑戦課題に対処することはできないので、外交を活用しなければなりません。私は今年、米国の同盟関係を更新し、新しいパートナーシップを形成するために、時間を費やしてきました。
我々は、アメリカとイスラム教世界の間に新しい出発を画しました。それは、紛争の悪循環を断ち切ることの相互利益を認識し、平和と繁栄と人間の尊厳のために立ち上がる人々により罪のない人々を殺す者が孤立させられる将来を約束する出発です。

そして最後に、我々は米国の価値観の力に頼らねばなりません。なぜなら、我々が直面する挑戦課題は変化したかもしれないが、我々が信じるものは変化してはならないからです。それゆえ、我々は米国の価値観を国内で実践することにより、促進しなければなりません。それが、私が拷問を禁止し、グアンタナモ基地の刑務所を閉鎖する理由です。そして、圧制の暗雲のもとで暮らす世界中の男女、子供全員に対して、アメリカは彼らの人権のために叫び、全ての人のための自由と正義、機会と尊厳性尊重の光を守ることを明確にしなければなりません。それが我々の本質です。それがアメリカの権威の源泉であり、道徳的な源泉です。

フランクリン・ルーズベルトの時代から、我々の祖父母、曾祖父母の軍務と犠牲から、我が国は世界情勢の特別な重荷を担ってきました。我々は、多数の大陸の多くの国々でアメリカ人の血を流してきました。我々は、他国が瓦礫の中から国を再建し、自国経済を発展させるのを助けるために、米国の歳入を支出し

てきました。我々は、人間の共通の安全保障と繁栄を提供する国連から NATO、世界銀行に至る機関の構造を展開するために他国と協力してきました。

我々は、こうした努力に対して常に感謝されてきたわけではないし、時として過ちを犯してきました。しかし、他のいかなる国にもまして、米国は過去60年間以上世界の安全保障を引き受けてきました。この期間中には、多くの問題もありましたが、壁が壊され、市場が開放され、何十億人もの人が貧困から抜け出し、比類ない科学的進歩が達成され、人間の自由の境界線が押し広げられた時代でした。

というのも、古い時代の大国とは異なり、我々は世界支配を求めなかったからです。我が国の結束は、抑圧に対する抵抗に礎を置いていました。我々は他国を占領することを求めません。他国の資源を要求することも、信仰や民族の違いを理由に他の人々を攻撃することもしません。我々が戦ってきた、そして戦い続ける理由は、子孫のためのより良い将来です。そして、我々は、他国の子孫が自由に生き、機会が与えられるものならば、子孫の生活もより良いものになると信じています。（拍手）

国家として、我々はルーズベルトが大統領だった時ほど若くはないし、おそらくそれほど純真でもありません。それでも、我々は自由のための尊い闘争を引き継いだ後継者です。今こそ、我々は新しい時代の挑戦課題に応えるために力と道徳的勧告の全てを結集しなければなりません。

最後に、我々の安全保障と指導力は、軍事力だけに由来するものではありません。それは、米経済を再建する労働者、実業家、新しい産業を開拓する起業家、研究者、子供達を教育する教師や国内の地域社会で働く人々の奉仕、海外で希望を広める外交官や平和部隊のボランティア、人民の人民による人民のための政府をその地球上で現実にした間断ない犠牲の一部である男女軍人など、米国民に由来しています。（拍手）

この膨大で多様な市民は全ての問題で常に意見の一致を見るわけではないし、そうあるべきでもありません。しかし、私はまた、国として、もし我々が近年米国の国論を毒してきたと同じ憎しみ、冷笑主義、党派対立による分裂を許すならば、我々の指導力を持続することも、現代の重大な挑戦課題の間を潜り抜けることもできないことを知っています。

忘れてしまいがちですが、この戦争が始まった時、我々は団結していました。恐ろしい攻撃の生々しい記憶と、米国土と我々が大切にする価値観を守る決意により結束していました。我々がこの団結を再び実現できないという考え方を受け入れることを、私は拒否します。（拍手）私は自分の全存在を賭けて、我々はまだ米国民として共通の目的のもとで結束できると信じています。なぜなら、我々の価値観は羊皮紙に書かれた単なる言葉ではなく、我々を一つに結束させ、

一つの国家として一つの国民として我々が最も暗い嵐の中を切り抜けることを可能にした信条であるからです。

アメリカ―我々は、大きな試練の時を通過しています。この嵐の只中で我々が送るメッセージは明白です。つまり、我々の目的は正当なものであり、我々の決意は揺るぎないものです。正しいことが力となるという自信を持って、より安全なアメリカとより安定した世界、最も深い恐れではなく高い希望を代表する将来を形作るコミットメントを持って、我々は前進します。（拍手）

ありがとう。皆さんに神の祝福がありますように。神がアメリカ合衆国を祝福されますように。（拍手）　大変ありがとう。ありがとう。（拍手）

終了　　東部標準時午後 8 時 35 分